

明けまして

おめでとぅございます



安平町長 瀧 孝

町民の皆様には、輝かしい新春を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昨年は、参議院選挙の結果、与野党逆転のねじれ現象が再来し、政界は混迷の度を深めています。

また、国内経済においては依然厳しい状況ではありますが、緩やかながら景気を持ち直しが見られるようになっております。

しかし、自立的回復力は依然として弱く、円高の進行、長期化やデフレの進行により先行きは不透明といえます。そのような中、明るい話題としては、鈴木章さんのノーベル化学賞の受賞は、同じ管内出身者として大変喜ばしく思っているところであります。

農業では、昨年は全国的な猛暑による農作物被害や低調な作況に加えて、TPPの参

加選択の行方等が議論されており、米などの重要品目について、適切な関税措置がなければ、その影響は農業だけでなく地域経済にも大きく影響するなど予断を許さない状況となっております。

町内では今春からいよいよ旭陽牧場が利用開始となり畜産振興に貢献されるものと期待しています。

一方、昨年はジュニアスポーツ選手たちの活躍があり、特に早来中女子スピードスケート部の全国優勝は喜ばしい限りで、今年は史上初の4連覇の達成が期待されます。

また、スピードスケートにおいての功績が認められ、北海道スポーツ賞に中村駿佑さ



ジュニアA杯男子500mで3位に入賞した中村駿佑選手(写真右 11月20日苫小牧市)

ん、中村奨太さん、北海道スポーツ奨励賞に中村隼人さんのご兄弟3名が、それぞれ受賞されました。

安平町民として大いに誇りを感じています。

安平町の現状についてお話ししますと、昨年国勢調査が実施され、町民の皆様にもご協力いただいたところですが、住民基本台帳上の人口が9、000人を割り込み、減少は深刻な問題となっております、現状のペースでいくと2035年には6、138人と予測され、今後も人口が減少していくことが予想されます。

このような現状を踏まえ町では、人口確保対策として移住促進事業や定住促進条例に基づき様々な助成を行っていますが、今年新たな人口増加対策として、民間との連携によるアパート住宅建設助成の検討や、町外からの就労者の移住、定住に向けた施策、教育や福祉の連携による将来人口の増加などを安平町への定住につなげていきたいと考えております。

更に本年度予定される事業としては、以前から懸案であ



追分中学校改築工事は既に着手され、平成24年度の完成を目指す

りました統合学校給食センターの新築や追分中学校の改築工事をはじめ、早来小学校についても耐震診断を実施する予定で、子どもの教育環境の安全、安心を確保する重要な事業であります。

また、昨年は私が安平町長として2期目のスタートとなった年でしたが、これまで初代町長として町民の皆様が『合併して良かった』と心から思えるまちづくりに向け、全力投球で1期目の公約実現に努力して参りました。

しかし、これまでの4年間は長年の懸案となっていた各地域課題の解消や基盤整備による、均衡した発展を目指して参りましたが、本当の意味での「まちづくり」とは、都

市基盤整備などの財政論のみ

ならず、主人公である町民が、地域という垣根を越えて一丸となり安平町を創り上げていくことであるのだと、改めて痛感しているところであります。

このことから、現在本町では町民と行政が互いに力を合わせ「チームあびら」の合言葉のもと、たがいに敬愛し、地域で支え合うことができる協働のまちづくりを目指し「まちづくり基本条例」の策定を進めているところであります。

最後に安平町まちづくりのテーマである「くらしの笑顔が広がるぬくもりと活力と躍動のまち」の実現のため、また、本町がこれまで以上に魅力ある元気なまちとして発展していくために、町民の皆様をはじめ各企業や地域団体の皆様にお力添えいただきながら、山積する課題に全力で取り組んでいく所存であります。

今年1年が町民の皆様にとりまして幸多き卯年となりますよう、心からご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。